投稿

奨学金問題は本人の経済的問題ではない。
卒業後もよい人生を過ごせる制度に

三重大学生活協同組合
学生委員会委員長
倉岡　昂樹

最近、給付型奨学金という言葉をよく耳にする機会が増えてきました。しかし、実際は聞くことが増えただけで給付型奨学金を受けている人どころか、詳しい内容を知っている人はいません。家庭での生活が苦しいために、給付型奨学金を受けることができるのは学生目線で考えるとかなりいいものではないかと考えます。奨学金を受けて数年後、社会人になって利子がついた奨学金を返済し始めます。しかし、いざ就活をし始めて、就職がうまくできず非正規雇用という形になってしまい、奨学金の返済ができずに、できないからまたその上に金額が増えていきます。そして最後には払えずに自己破産してしまう、連帯保証人である保護者の年金生活が始まってから返済をしなければいけないというニュースを見ました。こうなってしまっては正直大学に通って、いい職業に就くため、勉強してよりよい人生を過ごしていこうとしていたのに、自己破産してしまっては全く返済型奨学金を借りる意味がないと私は考えています。また大学に入りたいと考えても、高校で奨学金を借りてしまっていたために返済のことも考えると大学に進学することをあきらめてしまうというケースもあるということを聞きました。自分の将来したいこと、理想像があり、それを達成するために大学に入ろうとして入れなかったら非常にもったいないことになってしまいます。給付型奨学金はそういった人を少しでも減らすことが可能であれば、世間に広まっていくと考えます。しかし、一つの問題として大学生が将来の生活に関して危機感をあまり覚えていないのではないかと私は感じています。まず将来の職を決定するために就活をしますが、そこまでは将来の見通しを立てていますが、その後のことはあまり考えていないというような印象を受けます。そのために奨学金を受けすぎて将来の返済が間に合わず、徐々に返済額が増えていって自己破産してしまうような可能性があるということを考えていないような人はいないと考えています。

大学生の授業料については自分で奨学金を借りて全額授業料を払っている人か、親に出してもらっている人がだいたいです。そのために下宿している人であれば自分の生活費に加えて授業料を稼ぐ、自宅から通っている人がいれば、交際費に加えて授業料を自分で稼ぐ必要があります。自宅から通う人より下宿生の方が、生活費がかかっているので、よりバイトに向ける時間が長くなってしまい、なかでは週4でバイトをしていたり、深夜バイトをしないといけない人など、他のバイトを掛け持ちしたりしている人もいます。確かに大学生に自立というものが家庭内でも世間でもある程度求められる場面があります。家庭ではある程度の経済的自立を求められ、世間ではある程度の社会的自立を求められる場面があります。そのために大学生が努力しようとして、結果的に自分の勉強であったり、資格を取得する時間が少なくなってしまいます。他にも自分の時間を持てなくなってしまうということも非常に大きな問題であると考えています。貴重な大学生活がそのように使えないのはもったいないと私は感じています。

そして大学生協では奨学金について取り組みを行っています。まず生協の東海事業連合では東海の生協学生員会に奨学金の問題であったりとか、給付型奨学金の存在の認知が行われています。また三重大学では生協の取り組みとして学内で奨学金問題のポスターを貼るなど学生の目に給付型奨学金が目につくような活動であったりとか生協職員のネームプレートに給付型奨学金の存在について知ることができるような缶バッヂや奨学金問題を提示することによって奨学金の在り方について考えさせるようなものなどもあります。全国生協学生委員会でも奨学金問題にも取り組んでいます。

奨学金問題というのはただ奨学金を借りていた社会人が返済できずに自己破産してしまうのは本人の経済的問題ではなく、当時大学生であった本人の考え方不足、家庭での考え方、また世間の大学生に対しての認知の甘さもあり、奨学金問題は本人の経済的問題だけではなく、大きな社会的問題ではないかと私は考えています。これを解決するために給付型奨学金がもう少し認知度が広がりを見せれば奨学金問題には有効な解決策になるのではないかと考えるので、大学は卒業までが関係するのではなく、卒業後も学生がよりよい人生を過ごしていけるように、学生に給付型奨学金というものを伝えていく必要があるのではないかと考えます。